【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立肥前中学校

1　前年度 評価結果の概要	・各評価項目については、概ね達成できた。学力向上や睡眠の大切さなど取り組みが不十分なところについては、見通しをもって改善できるように取り組んでいきたい。 ・生徒が自信をもって「将来の夢や目標を持っている」とかいとうできるよう、年間を通したキャリア教育の充実に努めていく必要がある。 ・各担当や各担任が連携を密にし、いじめの早期発見や生徒の意識の高揚を図るよう「いじめの防止に組織的対応ができている」と回答した職員の割合が、86%から60%に低下した。来年度は学年及び学年間の連携を強化していく必要がある。
2　学校教育目標	志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成
3　本年度の重点目標	Ⅰ　確かな学力の育成　⇒①「学ぶ力」を育成する教師の授業力の向上　②生徒一人一人の夢や目標を育むための教育活動の推進 Ⅱ　たくましい体力の育成　⇒①食育の充実と健康の保持増進　②体力・運動能力の向上 Ⅲ　思いやりの心の育成　⇒①いじめを生まない土壌づくりと自他を大切にする心の育成　②ボランティア活動の充実とボランティア精神の育成 Ⅳ　生徒指導体制の充実　⇒①自己指導能力の育成　②発達支持、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止 Ⅴ　保護者連携・小中連携　⇒①積極的な情報発信　②共に育てるという雰囲気の醸成 Ⅵ　働き方改革とメンタルヘルス　⇒①働き方改革の推進　②メンタルヘルス対策

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「学ぶ力」を育成する授業づくりに努め、学力の向上を図る。	○「先生はICTを活用した授業を行っている」と回答した生徒80%以上。	・1人1台端末を活用した授業改善に取り組み、研究を進める。 ・全員による研究授業と授業研究会を行う。	A	・生徒の90%、保護者の90%が、肥前中の先生は１人１台端末を積極的に活用していると回答している。授業や各種アンケート調査等を端末を活用して行っているので、この結果となった。	A	・生徒がタブレット端末などを使い学習していることは喜ばしい。学力が低いことが気になるので、今後は学力の向上に努めてほしい。	研究主任 学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートで、「人の嫌がること言ったり、したりしない」や「いのちの教育についての取組は役に立っている」「積極的にボランティアに取り組んでいる」と回答した生徒80%以上。	・計画的で継続的な道徳科の授業づくりをを実践する。 ・人権・同和教育、平和教育、命の教育、DV予防教育などを実施する。 ・生徒会を中心としたボランティア活動に積極的に取り組む。	A	・「いのちの教育についての取組は役に立っている」は96%の生徒が、「積極的にボランティアに取り組んでいる」は90%の生徒が肯定的な回答をしている。地域と共にボランティア活動を行っているので、この結果となった。	A	・生徒会を中心に、学校はいろいろな取り組みをしているようですね。地域のために清掃活動を行っていることは、ありがたい。「地域愛」を育て、今後も地域のためにできることを頑張ってほしい。	道徳教育推進教師 生徒会担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止、対応についての共通理解を図り、覚知時には組織的対応ができていると回答した教員の割合が80%以上。	・学年の生徒指導部会を充実させ、学年で迅速に対応できる体制をつくる。 ・生活アンケートを定期的に実施する。 ・開発的生徒指導を取り入れ、生徒に活躍の場を与え、自己肯定感を育てる。	A	・「各担当や各担任が連携を密にし、いじめの早期発見や生徒の人権意識の高揚を図るように取り組んでいる」と回答した教員の割合が100%であった。今後も、学年及び学年間の連携を図って、早期発見・早期解決につなげていきたい。	A	・来年度から、小学校からクラス替えもなく中学校へ進学してくるので、小学校での人間関係もとても重要ですね。小中での情報交換など連携の強化に努めてほしい。	生徒指導主事 教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上。	・キャリアプランの作成とキャリアパスポートの記入による、見通し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリアパスポートと学校生活を繋げることで、自分の長所に気づかせる。	B	・生徒の90%近くが「将来の夢や目標を持っている」「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と感じている。しかし、「自分の進路について考えたり目標を持ったりで含でいる」と回答した保護者は76%であった。年間を通して、保護者も含めたキャリア教育を図っていく必要がある。	B	・今年の3年生の進路が現時点で3分の1決まっていることは喜ばしいこと。生徒には希望する学校へ進学してほしい。そのためには、生徒の夢や目標の実現に向けて頑張ってもらいたい。保護者への周知に工夫が必要である。	総合的な学習の時間担当
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒の割合を80%以上。	・生活習慣アンケートの実施する。（運動・生活リズム・食事・安全について） ・毎日の健康観察を行い、自分の健康状態に関心を持つようにする。 ・食に関する取り組み（おにぎり弁当の日）を実施する。 ・生徒会の給食実践部の取組として、給食に使用されている食材について、情報を発信する。	A	・生徒の90%近くが、保護者の90%が「朝食の大切さを理解し、毎朝朝食を食べて登校している」と回答し、「健康に食事は大切である」と考えたりしていることが分かる。食に関する取り組み（おにぎり弁当の日）を実施したり、生徒会の給食実践部の取組として、給食に使用されている食材について、情報を発信したりしているため、この結果となった。	A	・健康は大切な事であるとともに、食育については引き続き指導をお願いしたい。「おにぎり弁当の日」が複数回行われると良いかもしれない。また、食の大切さについて引き続き取り組みを行ってもらいたい。	食育担当
	○体力・運動能力の向上	○「スポーツをすることは楽しい」と回答した生徒80%以上。 ○「体育大会やクラスマッチなどの体育的な行事での出番・役割を責任もって行った」と回答した生徒80%以上。	・体育大会やクラスマッチなどの体育的行事の充実を図る。 ・計画的な部活動運営と指導力の向上を図る。	A	・生徒の90%が「スポーツをすることは楽しい」と回答しており、90%の「体育大会やクラスマッチなどの体育的な行事での出番・役割を責任もって取り組んでいる」と回答した。	A	・体力や運動能力の向上のために、引き続き指導お願いしたい。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日に定時退勤日を設定する。 ・業務記録票により毎月の時間外勤務の状況を可視化し、各自改善を図る。 ・文書のペーパーレス化を図る。	A	・管理職の呼びかけと早めの退勤、定時退勤の可視化などの取り組みの結果、昨年度より時間外在校時間が15%減となった。 ・月45時間を超える職員は、4月と6月にそれぞれ3名、9月に1名いたが、それ以外の月は0名となっている。	A	・先生方の時間外在校時間が昨年度、そして今年と減ったことは喜ばしいこと。しかしながら、職員の中には仕事を持ち帰っている職員もいることだろう。くれぐれも健康には、留意してほしい。	管理職
	○メンタルヘルス対策	○「心のセルフチェックシステム」であまりストレスを抱えていないという結果の教員80%以上。	・メンタルヘルス対策健康に関する情報提供やストレスチェックの実施、管理職等による支援体制の充実などを実施する。	B	・本校教員の60%以上が「心のセルフチェックシステム」であまりストレスを抱えていない回答した。「健康診断審査委員会（精神・神経）で経過観察の教員がいるので注視していきたい。また、本校教員の100%が「職場の環境は過ごしやすい」と回答している。これは職員同士の関係が良い結果である。	B	・ストレスを抱えている職員がいること、また病気休暇をとっている職員がいることなど、気になるところです。職員がストレスを抱えないような取り組みが必要である。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する研修と実践の充実	○「支援を要する生徒に対して支援ができている」と回答した教員の割合が80%以上。	・個別の支援体制計画を作成し、効果的な支援を行うためにも、随時情報交換を行う。また、支援を要する生徒について全職員が共通理解し、校内全体での支援を図れるように努める。 ・児童生徒の実態により、関係機関や相談等の他機関などとの連携を図りながら支援を行う。 ・保護者からの相談には、随時対応できるようにする。	B	・個別の支援体制計画を作成し、効果的な支援を行うため、随時情報交換を行っている。また、支援を要する生徒について、不定期で支援委員会を行った。発達障害ではないかと思われる生徒が通常学級に混在している状況の中、生徒の実態により、関係機関や相談等の他機関などへどのようにつなげていけばよいのかが課題となっている。今後も関係機関や相談等の他機関などとの連携を図りながら積極的な支援を行っていきたい。	B	・喜楽尻を捕らえられる可能性があるので、保護者への説明を慎重に行ってほしい。今後も関係機関や相談等の他機関などとの連携を図りながら積極的な支援を行ってもらいたい。	特別支援教育 コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○ICTを活用した情報発信	○「学校は情報発信に努めている」と答える保護者の割合を80%以上にする。	・はなまる連絡帳やホームページの更新頻度を高め、学校行事や生徒の様子を積極的に発信する。 ・地域の人的・物的資源（地域やPTAとの連携）を活用した教育活動を実践する。	A	・はなまる連絡帳やホームページ、学校通信「無限大」や学級通信などを使って、学校は情報発信に努めている」と96%の保護者が回答している。はなまる連絡帳を活用したり、ホームページを充実したりするなど、保護者への情報発信に努めた結果である。	A	・今の時代を考えると、いろいろな方法が考えられると思う。情報発信の方法を考え、保護者だけではなく地域への情報発信の工夫が必要であろう。公民館だよりは各家庭へ回覧されているので、公民館だよりに学校の情報などを掲載させてもらうと良いのではないか。	管理職 学年主任・学級担任
○小中連携	○小中連携による共通理解と共通実践	○学校アンケートで、「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めていると回答した保護者を80%以上にする。	・肥前中校区教育研究会を充実させ、小中連携した取組を行う。 ・小中連携の取組を積極的に保護者に発信する。	A	・「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めている」と86%の保護者が回答している。定期的に校区内の小中学校で連携を図って、取り組みを行っているのでこの結果となった。	A	・来年度から肥前小学校を卒業した児童が肥前中学校へ進学してくることになるので、義務教育9年間を見通した小中連携を深めていってほしい。	管理職 各部会担当

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・各評価項目については、概ね達成できた。学力向上や特別支援教育の充実さなど取り組みが不十分なところについては、見通しをもって改善できるように取り組んでいきたい。 ・生徒が自信をもって「将来の夢や目標を持っている」と回答できるよう、年間を通したキャリア教育の充実に努めていく必要がある。 ・特別な支援が必要ではないかと思われる生徒が通常学級に混在している状況の中、生徒の実態により、関係機関や相談等の他機関などへどのようにつなげていけばよいのかが課題となっている。今後も関係機関や相談等の他機関などとの連携を図りながら積極的な支援を行っていきたい。